エコアクション21

2023 年度 環境経営レポート

（対象期間:　2023 年4月1日 ～ 2024 年3月31日）

信州飯田と純氷

明治三十三年創業
宮下製氷冷藏株式會社

エコアクション21
認証番号0010283

作成日:　2024年8月6日

目　　次

項　　目	ページ
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
サイトごとの環境負荷の割合	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	12

工場全景

環境経営方針

＜環境経営理念＞

基本理念
「信州の大地と生きる」

１．　私たちは信州の大地から生まれるものを限りあるものとして位置づけ大切にします。

２．　私たちは信州の大地から生まれるものを深く掘り下げ冷力というエネルギーを生かし、

お客様に喜びと安全安心を正直な社風をもってお届けします。

３．　私たちは地域資源とエネルギーに支えられて成り立つ食品メーカーとして長期的視点に立ち

環境負荷の低減を図り、地球環境・信州の大自然の保全・調和に取り組みます。

＜環境保全への行動指針＞

１．　環境負荷低減と環境保全活動に取り組みます。

（1）省エネ推進による二酸化炭素排出量の削減を図る。

（2）地球環境により優しい冷媒への順次転換を図る。

（3）再生可能エネルギー等、よりクリーンなエネルギー源にシフトさせる。

（4）恵まれた地下水の水環境を保全し、節水に心掛け尊く使用する。

（5）社屋を夏の日差しから守り冬の太陽を生かす構造としエアコンのみに頼らない環境を作る。

（6）廃棄物削減及び、食品リサイクルを推進します。

（7）事務用品のグリーン購入を促進する。

（8）ゴミ分別回収を推進する。

（9）事業所近隣環境・緑化保全活動を推進する。

２．　環境関連法規を遵守し信頼ある企業を目指す。

３．　当社社員はこの環境方針を理解し、全員参加の具体的行動による取り組みを目指す。

４．　当社社員は勉強会等を通して環境への理解を深め、自然への畏敬と感謝を共有する。

制定日：2013年12月1日

代表取締役社長　宮下茂樹

□組織の概要

更新日：2024年8月6日

（1）名称及び代表者名
宮下製氷冷蔵株式会社
代表取締役社長　宮下　茂樹

（2）所在地
本店・松尾営業本部　　長野県飯田市松尾代田900番地
通り町営業所　　長野県飯田市通り町2丁目2番地
株式会社アイス信州　　長野県飯田市松尾代田900番地

宮下製氷冷蔵株式会社
株式会社 アイス信州

（3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者　　取締役　　小澤　克彦
担当者　　EA21事務局　宮下　創

〒395-0812　長野県飯田市松尾代田900番地
Tel 0265-52-0123　Fax 0265-24-9383
mail : miyashita.eco21@m-ice.co.jp　　HP　: http://www.m-ice.co.jp

（4）事業内容
氷雪製造・販売、食品製造・販売、冷蔵倉庫業 、一般貨物運送事業、
ドライアイス販売・関連資材販売、蓄冷材製造販売、鮮度保持関連資材販売、
かき氷原料・一般食品・関連機器販売、果物等の加工・リパック事業

（5）事業の規模
売上高　　23億4120万 円（2023年度）

	本店・松尾営業本部	通り町営業所	株式会社アイス信州	0	合計
従業員　名	46 名	8 名	38 名	名	92名
延べ床面積　㎡	7843.6 ㎡	464.2 ㎡	㎡	㎡	8,308㎡

（6）事業年度　　4 月　1 日 ～　3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：　宮下製氷冷蔵株式会社
対象事業所：　本店・松尾営業本部
通り町営業所
株式会社アイス信州

対象外：　無し
活動：　氷雪・食品等の製造・販売、冷蔵倉庫業

□事業や製品（商品）の紹介

信州深層天然水の氷

袋詰め氷

ほかまん・酒まんじゅう直売

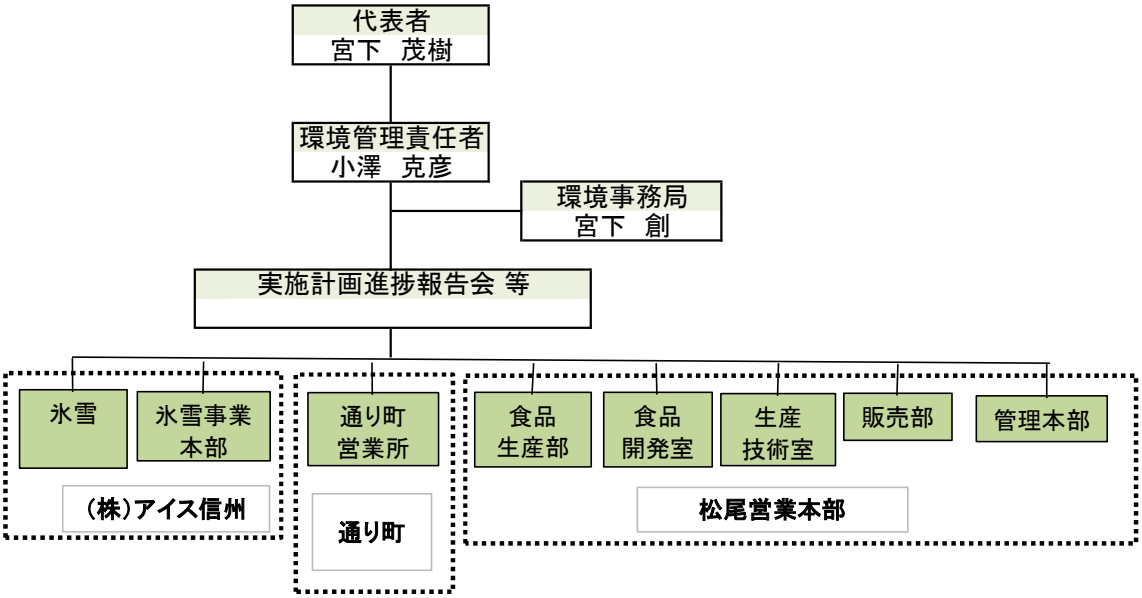
信州飯田 東山道 TOSANDO

生シロップ

冷蔵保管サービス

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2024年8月6日



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定・見直し・周知
	・環境経営目標・環境経営計画書を承認
	・代表者による全体の評価と見直し、指示
	・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理
	・環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	・環境経営目標・環境経営計画書を確認
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、実施計画進捗報告会 等の事務局
	・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
	・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
	・環境活動の実績集計
	・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
	・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
	・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
実施計画進捗報告会 等	・環境経営計画の審議
	・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知
	・自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
	・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施
	・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
	・試行・訓練を実施、記録の作成
	・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
	・決められたことを守り、主体的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項　目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	2,614,784	2,543,015	2,346,379
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	2,322	2,421	2,033
産業廃棄物排出量	kg	26,838	24,269	24,034
食品廃棄物				
発生量	kg	5,878	8,098	6,721
発生抑制量		0	0	0
再生利用量		90	1,200	1,270
熱回収量		0	0	0
減量量		5,788	6,898	5,451
再生利用以外の量		0	0	0
廃棄物処理量		0	0	0
食品再資源化実施率	%	100.0%	100.0%	100.0%
水使用量	㎥	105,942	103,753	85,001

※二酸化炭素排出係数　0.459　kg-CO2/kWh　中部電力ミライズの調整後の係数（2023年度計算用2022年度実績）

□環境経営目標及びその実績

項目 ＼ 年度		基準値	2023年		評価	2024年	2025年
				通期			
		（基準年）	（目標）	（実績）		（目標）	（目標）
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	2,442,505	2,393,655	2,247,197	○	2,369,230	2,344,805
	基準年度比	2022年	98%	92%		97%	96%
原単位	kWh/千円	2.674	2.621	2.305	○	2.594	2.567
プロパンガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	7,946	7,867	9,139	×	7,788	7,708
	基準年度比	2022年	99%	115%		98%	97%
原単位	kg/千円	0.00122	0.00120	0.00130	×	0.00119	0.00118
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO2	56,887	56,318	52,370	○	55,749	55,180
	基準年度比	2022年	99%	92%		98%	97%
原単位	L/千円	0.0105	0.0104	0.0090	○	0.0103	0.0102
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	35,677	35,320	37,673	×	34,963	34,607
	基準年度比	2022年	99%	106%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	2,543,015	2,493,160	2,346,379		2,411,981	2,387,119
一般廃棄物の削減	kg	2,421	2,397	2,033	○	2,349	2,324
	基準年度比	2022年	99%	84%		97%	96%
廃プラの削減	kg	26,677	26,144	23,702	○	26,144	25,877
	基準年度比	2021年	98%	89%		98%	97%
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	自主目標		98%	100%	○	98%	98%
	食リ法目標		51%		○	52%	53%
井戸水の削減	㎥	103,686	103,686	84,905	○	101,612	100,575
	基準年度比	2022年	100%	82%		98%	97%
化学物質の適正管理	行動目標（次項による）						
環境に配慮した生産活動	行動目標（次項による）						

□サイトごとの環境負荷の割合　（対象範囲全体をを100%とした場合）

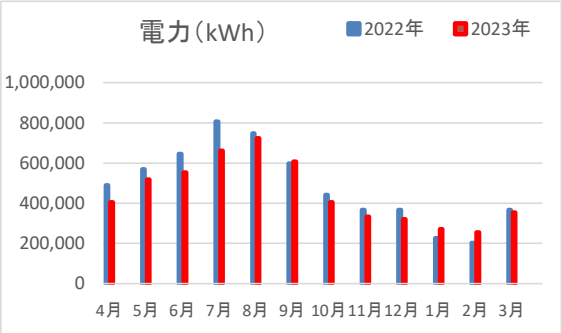
項　目	（株）アイス信州	本店・松尾営業本部	通り町営業所
電力による二酸化炭素	93.38%	4.53%	2.08%
プロパンガスによる二酸化炭素	0.00%	99.18%	0.82%
灯油による二酸化炭素	20.16%	78.75%	1.09%
自動車燃料による二酸化炭素	10.47%	57.06%	32.47%
二酸化炭素排出量合計	90.00%	7.43%	2.56%
一般廃棄物	9.99%	82.03%	7.98%
廃プラ	99.86%	0.00%	0.14%
食品廃棄物（発生量）	0.00%	100.00%	0.00%
井戸水	95.20%	3.86%	0.95%

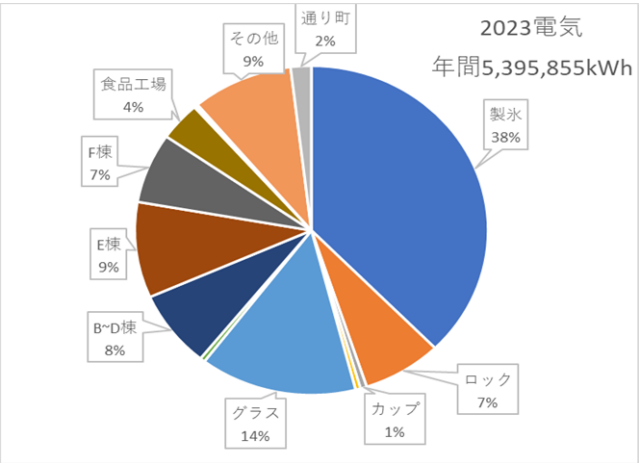
□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：〇達成　×未達成
活動：◎よくできた　〇まあまあできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	〇	新冷凍機導入による省エネ効果が年間通して現れた結果、大幅な削減が実現できた。
・原氷エネルギー指標の確認と改善		
・その他空調冷凍機の省エネ推進		
・昨年リプレースした自然冷媒冷凍機の性能検証		
	単位：kg-CO2	

アイス信州での取り組み



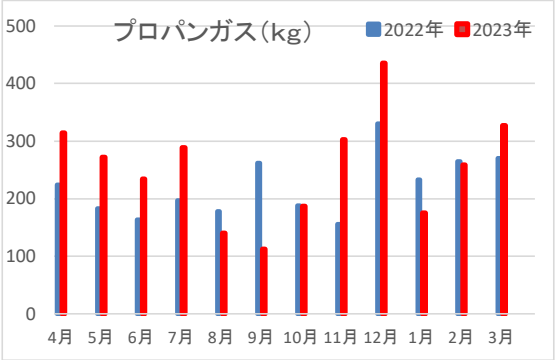


	基準年	目標（基準年比）	実績（基準年比）	評価
電気	2022	98%	93%	〇

	累計
2022	5,821,362
2023	5,395,855
前年比	93%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	488,876	567,272	644,443	806,611	748,252	597,491	440,730	366,929	365,699	226,061	201,789	367,209
2023年	403,222	517,033	553,582	660,699	723,204	606,082	404,104	331,918	319,418	269,442	254,149	353,002

プロパンガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	まんじゅう工場の稼働日が基準年度、2023年度共に123日で変わらず、生シロップ工場の稼働日が基準年度131日、2023年度109日と減っているのにかかわらず、プロパンガス使用量が基準年の115%となっている。器具洗浄で用いるお湯の使用量が増えていると考えられる。
・給湯温度の適正管理		
・開発室での適正使用		
・給湯器の適正利用		

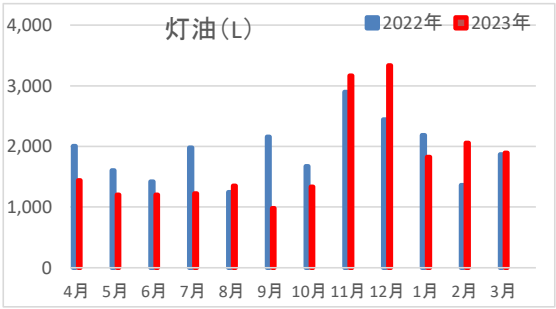


	基準年	目標（基準年比）	実績（基準年比）	評価
ガス	2022	99%	115%	×

	累計
2022	2,649
2023	3,046
前年比	115%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	224	183	164	197	178	262	188	155	331	233	265	270
2023年	314	272	234	289	141	112	187	302	435	175	259	327

灯油による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	まんじゅう工場の稼働日は基準年度、2023年度共に123日であったが、灯油使用量は基準年度の92%となった。蒸気漏れの定期的な修繕等の影響が出ていると考えられる。
・ボイラー稼働時間の管理徹底		
・石油ストーブの適正利用		

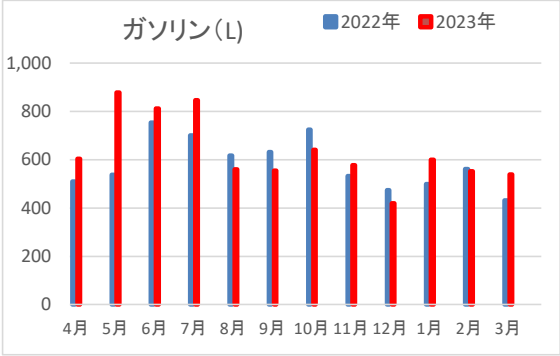


	基準年	目標（基準年比）	実績（基準年比）	評価
灯油	2022	99%	92%	○

	累計
2022	22,846
2023	21,032
前年比	92%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	2,006	1,605	1,420	1,977	1,245	2,163	1,670	2,899	2,442	2,187	1,364	1,868
2023年	1,439	1,202	1,200	1,226	1,352	985	1,333	3,172	3,336	1,828	2,063	1,896

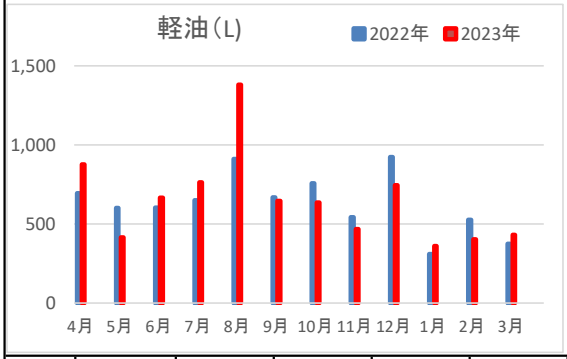
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	コロナが明け、営業頻度も上がった為、出張が増え使用量自体は増加したが、全車両において差はあるものの、2022年度に比べ、燃費は向上させる事ができた。一番はプリウスで、リッターあたり1.84km伸ばす事ができた。 エコドライブやアイドリングストップを意識できていると考える。
・高燃費車両の優先使用		
・環境に良い営業車　適正運用		
・高効率・効果的な配送方法・頻度の継続		
・エコ運転講習受講と展開		
0		



	基準年	目標（基準年比）	実績（基準年比）	評価
ガソリン・軽油	2022	99%	105%	×

ガソリン	累計
2019	8,283
2022	6,969
2023	7,596
2019年比	92%
2022年比	109%

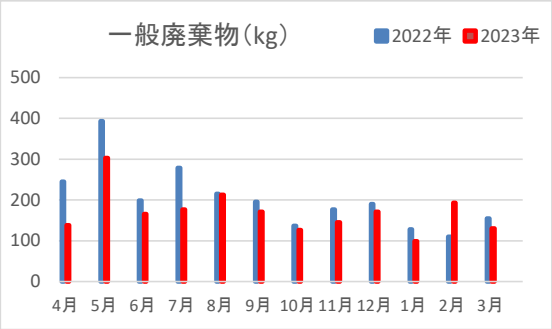
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	510	537	752	700	617	632	724	531	473	499	561	432
2023年	604	877	811	847	559	554	640	577	420	600	551	538



軽油	累計
2019	13,421
2022	7,562
2023	7,787
2019年比	58%
2022年比	103%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	694	602	604	649	910	667	757	544	923	310	526	376
2023年	876	415	666	763	1,380	646	636	468	745	360	402	431

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	全体的に目標以上の排出量 削減が出来ている。 外回りの草木・休憩室・機械室からの排出量 削減が大きい。 しかし、食品事業の売上拡大に伴い、生産の前倒しが進んでいるため、2月のみ例年を大きく越える排出量となっている。
・会議資料の事前・データ配信		
・印刷不要な資料はメール配信		
・分別・展開による資源リサイクルの推進		



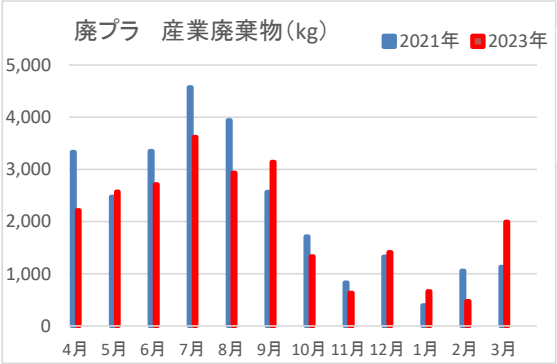
	基準年	目標（基準年比）	実績（基準年比）	評価
一般廃棄物（可燃ごみ）	2022	99%	84%	○

取組紹介欄

	累計
2022	2,421
2023	2,033
前年比	84%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	245	393	199	279	215	195	137	176	190	128	110	154
2023年	138	303	166	177	212	171	127	145	171	99	193	130

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	2023年度については2021年度と比べて、氷雪部門全体の生産量は微減であったが、抜きカス等の廃棄物が多いグラス商品群が大きく減少しているため、その要因もあり減少、目標達成できている. 氷雪部門については生産量あたりのロス率についても改善しており、2022年度、2023年度と改善が進んでいるが、2022年度と比べると全体の廃プラは微増している。
・色付きプラリサイクルの検討		
・仕入れメーカーとの取り組み検討		
・生産時ロス率・不良の向上		
・場所別の排出内容確認		



	基準年	目標（基準年比）	実績（基準年比）	評価
廃プラ	2021	98%	89%	○

	累計
2021	26,677
2023	23,702
2021年比	89%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	3,331	2,473	3,353	4,572	3,942	2,562	1,712	832	1,323	393	1,052	1,133
2023年	2,213	2,573	2,712	3,623	2,933	3,143	1,333	633	1,412	662	473	1,993

食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	昨年度に引き続き通年で再資源化実施率100%とすることが出来た。
・生ごみ処理機の適正な利用継続		

取組紹介欄

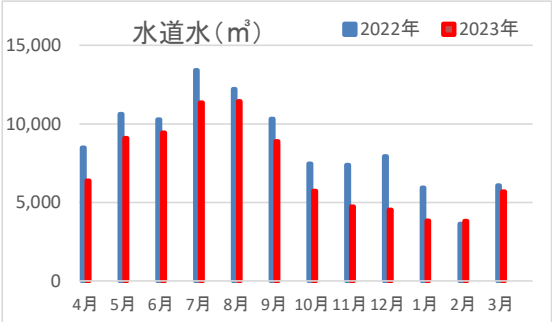
引き続き生ごみ処理機を活用。（設置位置変更で利便性も増加）

また賞味期限が近い製品については、昨年度に引き続き子ども食堂などに寄付を行っている。

弊社の提供した生シロップを地域のパン屋さんで活用いただき、子供のいるご家庭にお菓子の配布などをしていただいている。

本店・松尾営業本部での取り組み

井戸水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	水の使用量は年間では82%と18%削減となった。 氷1t製造にかかる水(t)比較では年間40.2%と59.8%かなり大きく減少となった。 理由として考えられるのは2点。 ①リプレース冷凍機の性能による削減 ②リプレース冷凍機の問題点改善(冷凍機耐熱温度向上・冷却水温上昇抑制)により冷却効率向上による削減 ※9/11改善完了　9月より削減率が大きく向上している
・節水の呼びかけ継続		
・製氷用冷凍機リプレース後の水使用調査		



	基準年	目標(基準年比)	実績(基準年比)	評価
井戸水	2022	100%	98%	○

	累計
2022	103,686
2023	101,100
前年比	98%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	8,467	10,615	10,270	13,402	12,208	10,311	7,463	7,390	7,925	5,936	3,631	6,068
2023年	6,400	9,098	9,433	11,348	11,425	8,872	5,727	4,734	4,540	3,842	3,799	5,690

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・化学物質の管理の徹底		年間通して適正な管理が実施できた。今後も継続していく。
・有害性物質の表示の徹底		
・リスクアセスメントの実施		

グリーン購入への取組

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・ロス率低減・稼働率向上		みかん皮を再利用した商品については、短期的なものとして終わり、今後に続く活動とはならなかった。 工場の生産現場では、ロス率削減の追究を続け、より環境負荷の少ない生産を実現したい。
・廃棄物の商品化利用　検討・試作		

取組紹介欄

電気使用量に関する取り組み

段ボールで手作りのダクトを作成し、機械室内の排熱を最適化。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、金属、ゴム、木くず等）
食品リサイクル法	食品廃棄物
騒音規制法	空気圧縮機、送風機
振動規制法	空気圧縮機
水質汚濁防止法	油の流出事故時の措置
（省エネ法）	特定事業者・第二種エネルギー指定管理工場（2021年度はエネルギー使用量1,500kℓ未満）
建築物省エネ法	非住宅建築物
長野県地球温暖化対策条例	2020年度エネルギー使用量1,500kℓ以上
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫
高圧ガス保安法	
労働安全衛生法	SDSが義務化された物質・特定施設
食品衛生法	HACCPに沿った衛生管理
毒物及び劇物取締法	水酸化ナトリウム
消防法（危険物）	危険物の保管
工場立地法	緑地面積
グリーン購入法	
家電リサイクル法	エアコン・テレビ・冷蔵庫・冷凍庫・洗濯機
小型家電リサイクル法	小型家電製品　（28品目）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。
なお、違反、訴訟等も過去1年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

2023年度は

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：　火災の発生

■実施日：　2024/1/30(火)　■実施場所：　松尾事業所

■参加者：　松尾事業所　従業員83名中 60名参加
（欠席者には後日、内容のフィードバックを実施）

■実施内容：　避難場所確認・緊急時の組織分担確認・消火訓練・安否確認メールテスト

■評価：　手順書の変更の必要性　☐ あり　☑ なし

緊急時の避難場所・避難経路・組織分担の確認、消火器の使い方の教育、安否確認メールが正常に機能するかの確認が行えた。
緊急時は普段できることができない為、それを考慮した避難方法を考えておく必要があること、
羽田空港の炎上事故からの奇跡的な全員脱出を模範とし、訓練の反復が緊急事態での冷静で的確な行動を取る為に重要であることを、共有できた。
また本年は、同日に安全衛生委員会による・KYT(危険予知トレーニング)・リスクアセスメントの講習も行い、避難訓練も含めた合同全体会議の日として行なった。

■実施状況の様子

↓ 合同全体会議

緊急事態の想定：　緊急事態（火災）試行・訓練

■実施日：　2024/3/13(水)　15：00～15：30　■実施場所：　【通り町営業所・総務部】

■参加者：　参加者：通り町営業所 常駐者8名中8名　および非常駐者1名　計9名参加

■実施内容：　避難訓練、消火設備・AEDの設置場所・使用方法の確認、救命講習の簡易的な復習
倉庫 扉の停電時の開け方 確認・実演

■評価：　手順書の変更の必要性　☐ あり　☑ なし

・通り町営業所・総務各部署の避難経路、非常時持ち出し品の確認。
・消火器設置場所4か所（通り町営業所2か所、総務1か所、通り町1か所）の確認。
・救命時は第一に119番通報。AEDは通り町営業所事務所内設置あり。
・能登震災のことを踏まえ、建築後 年数が経っている当 営業所も災害時は倒壊の危険があること、
　災害時はとにかく早く建物の外に出ることが重要であること、を周知した。
・本年は倉庫 扉の停電時の開け方についても各自 実際に触って確認できた。また、その際 手元を照らせ
　ないと難易度が大きく上がることから、ライトの携帯が重要であることを認識できた。

■実施状況の様子

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2024/7/22

【前回の指示への取組結果】

＜情　報＞		＜見直し・指示＞
◇自社を取り巻く環境問題の変化 2022年度26円台　2023年度23円台は従来の18円台の電力kw単価に比較して異常な水準となり、それを価格転嫁等でカバーする方法は容易ではない異常事態となりました。一方で、近年実施してきた冷凍機（製氷/冷凍）の自然冷媒化が中大型機に関して2022年度末で完了するというタイミングとなりました。検証を進める中、電力全体の38%を占める製氷用/7%を占める最も大きな冷凍庫（F棟）用が自然冷媒で且つ約従来の2/3相当の省エネルギーが実証出来ました。マッチングを誤ると自然冷媒の世界でも省エネならぬ"増エネ"もあり得る中で結果につながったのは早くに着手し時間をかけて製氷業界の外も含めて技術検討をしてきた成果とみております。	⇒	◇環境方針 内容に変更はありません 幸いにも当社がエネルギーを大切にし水資源・水環境を大切にすることが社会的意義を高めると共に、実利のシナジーにもつながる可能性があり、エコアクションに取り組む価値が高い業態であることにやりがいを感じております。
◇環境経営目標・計画の達成状況 当製氷業界は夏のピークの形（温度変化に左右されやすい）をみても異常ともいえるくらい長い長い半年間となりました。そうした中で全社を挙げてピーク対応力を長期に渡って維持することが叶いました。マーケットの要望に商品を切らすことなく応えられたことは信用の積み重ねとともに、予防保全中心の営繕が習熟度を増している。そのことに技術部門はもとより生産人材/品質保証/物流・需給など一体の努力のおかげと関係者に深く感謝申し上げます。当社の場合、脱カーボンの視点からは電力の占める割合が非常に高い要素で、それが基準年比で93%を実現できたことは全体としての成果としても良好となったとみております。		◇環境経営目標・環境経営計画 エネルギー効率、とりわけ熱の有効利用に関しては日本は冷やすことと温めることは別物という理解が多いと見ています。エネルギー効率を上げていくには現場の鋭い目の付け所と、異業種などの先進事例からの学びを組み合わせることでまだまだ余地は残されていると思われます。その深堀りを今後もつづけてまいりたいと考えます。 特別扱いされてきた"猛暑"が当たり前になりつつある中、お客様の期待値に応えられるマーケット対応力や新商品開発で更なる生産性を確保してまいります。成長を目指す過程ではエネルギーの絶対値を下げることなかなか困難です。さらなる効率（原単位の向上）を追究してゆくことでエネルギーを多く必要とする産業として社会的責任を企業Totalで果たしてまいりたいと思います。
◇その他 当年度には5名の入社がありました。そうした人材に対しても「冷媒の勉強会」「水の勉強会」を実施し当社に属する重要感やこの会社の社会的存在意義ににについて理解につながったと考えています。		◇実施体制他 体制には変更ありません 効率の指標となるり業界統計ともつながる「原単位」を継続的に正確に把握し続けること。それを他企業と同じ言語で伝え合うことで切磋琢磨のきっかけになれば素晴らしいと思います。

環境経営方針	☑ 変更なし	□ 変更あり
環境経営目標・計画	☑ 変更なし	□ 変更あり　実績を踏まえて見直すこと
実施体制他	☑ 変更なし	□ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介